

現代の名工 近江の名工
伝統の技と美の結晶
「近江上布」新作鞆
今、ここに完成



近江上布とは…

日本最大にして、世界的にも古い湖のひとつ琵琶湖。

その肥沃で多湿な風土で生まれ、育まれてきた近江上布は、室町時代から生産され、幕府への献上品として古くから利用されてきました。

近郊で良質の原料が手軽に入手でき、強靱な撚(より)糸が得られ、江戸時代になると彦根藩の手厚い保護のもと、農家の副業として麻布業は飛躍的に発展しました。



近江上布つむぐ会とは…

平成20年7月に結成。

近江上布の魅力について、幅広く知って頂くことを目的に事業を展開している。

近江上布の伝統工芸士 大西實、和装袋物製造を行い近江の名工の 因幡 稔、そして、フラワーデザイナーで現代の名工の河合透を中心として、活動を展開している。

この度、近江上布の良さを活かし、3者がコラボし、新商品のかばんを開発した。

卓越した技能者表彰

現代の名工とは…

厚生労働省では、広く社会一般に技能尊重の気風を浸透させ、技能者の地位及び技能水準の向上を図ることを目的として、毎年1回、卓越した技能者を表彰している。

平成21年度 全国で150名表彰

滋賀県技能者表彰

近江の名工とは…

滋賀県では、広く一般社会に技能尊重の気運を浸透させ、技能水準の向上を図ることを目的に滋賀県内において現役の優秀な技能者を表彰している。

平成20年度 県下で18名表彰

彦根市稲枝地域の3名工

上布に命を吹き込む

近江の名工 大西 實



昭和22年7月11日生

滋賀県を代表する近江上布の製造に長年従事し、時代の思いに応え、表情豊かな上布を織りあげる。

また、若手後継者の育成にも力を入れている。

自社ブランド「新之助上布」

平成20年 近江の名工に選ばれる。



花で世界を彩る

現代の名工 河合 透



昭和27年1月10日生

19歳で生花店を先代から継承し、フラワーアレンジメントの魅力に惹きこまれ、以来その技能を練磨し続けてきた。

和の感性を基調とし、繊細かつ斬新なデザインで、世界的な評価も高い。

平成20年 現代の名工に選ばれる。



袋物を磨く

近江の名工 因幡 稔



昭和22年4月20日生

袋物の製造に長年従事し、竹べらによる浮かし貼技能に優れている。

時間と手間を惜しまず、ひとつひとつ手作りで、顧客のニーズに忘えている。

自社ブランド「和心日和」

平成17年 近江の名工に選ばれる。

